

「バタフライ・ジャパンツアー in いわき」について

いわき地区高体連卓球専門部委員長 清水 聖
(昌平高校)

2月16日、「いわき市小中高生卓球競技強化リーグ大会」がいわき市総合体育館で実施されました。選手諸君は朝から真剣に試合に臨んでいました。お昼まで熱戦が続きましたが、一度中断し午後1時から東日本大震災の復興支援を目的に、(株)タマス様のご協力により「バタフライ・ジャパンツアー in いわき」が開催されました。参加者は小中高生合わせて約400名、約2時間にわたるイベントで盛況のうちに幕を閉じました。

今回タマス様により、このジャパンツアーへの協力をバタフライ・アドバイザースタッフ（契約選手）に呼びかけていただいたところ、吉田海偉選手（2004～2005年全日本選手権優勝、2009年世界選手権横浜大会ベスト8）と吉村真晴選手（2012年全日本選手権優勝）が名乗りを上げ、寒い中遠路はるばる駆けつけてくれました。特に吉村選手は世界選手権前の大事な時期でしたが、「私は茨城県出身ということもあり、福島には試合でよく来ていたし友だちもいる。自分にできることは卓球で多くの人たちに元気を与えること」と今回名乗りを上げた理由を述べています。

両選手が体育館のフロアに入場する際には、MCを務めたバタフライ・スタッフの方の演出もあり、非常に盛り上がりました。卓球台を中心に四方を小中高生で囲み、入場した選手たちはハイタッチで応えてくれました。初めてじかに両選手を目にした参加者も多く、特に中学生諸君は感激の様子で、かなり甲高い声も聞かれました。

両選手の紹介が行われた後、早速プレーを披露していただきましたが、まず普段行っている練習内容を3つずつ見せていただきました。吉田選手は、「フォア2本・バック2本のフットワーク」「フォア・ミドル・バックの3点のフットワーク」「3球目ドライブ」の3つ。吉村選手は、「バック・ミドル、バック・フォアの切り替え」「ミドル→フォアかバック、ミドル→フォアかバック・・・の切り替え」「多彩な台上処理」の3つでした。さすがに元全日本チャンピオンで国際大会でも活躍されているだけあり、どのプレーもスムーズで「すごいな!!」と感じるものだったと思います。圧巻だったのは、吉田選手の3球目ドライブでしょうか。ウォーミングアップが不十分で寒かったこともあり、普段の6～7割くらいの力だったかもしれませんが、その速さは見ている者の度肝を抜くものでした。MC役の方によると、同社の渋谷浩氏（元全日本チャンピオン）が、「選手時代に受けたドライブで最も速かったのは吉田海偉選手だった」と話していると言っていました、それを肌で感じる事ができたのではないかと思います。吉田選手は打球する際、軸をまったく崩さず、駒のようにして打っており、体幹の強さがうかがえました。

一流選手のプレーを見る場合、身体の動きなどに注目することはもちろんですが、ネットミスやオーバーミスしたボールを見るのもその回転量や球質のすごさを理解するうえで

重要だと思います。ボールの行方を追うことで、バックスピン、サイドスピン、トップスピンのすごさが分かります。私がかつて所属したあづまスポーツ少年団の先輩である高橋健一さん（故人）が、全日本選手権に出場し、友人のベンチコーチをお願いされた際、隣のコートで齋藤清選手（全日本選手権8度優勝、1983年世界選手権東京大会ベスト8）が試合をしていて、「（齋藤選手が）ドライブをネットミスしたら、しばらくジョリジョリ・・・とすさまじい摩擦音を上げていた」と驚きの声を上げていましたが、そういったところからも一流選手と自分たちとの違いを感じ取ることができると思います。

さて、吉田選手と吉村選手による技術紹介後は、地元を代表して安齋正樹君（福島工業高等専門学校）が吉田選手と、外山愛さん（磐城第一高校）が吉村選手とチャレンジマッチを行いました。周囲の期待を背にがんばった2人ですが、なかなか歯が立たなかったようです。安齋君は吉田選手との試合後、「ボールの球質がまったく違い、自分の次元よりはるかに上でした。世界のトップクラスの選手のボールにじかに触れることができ、宝物のような良い経験になりました。吉田選手から、『ガンバレ！！』と声を掛けてもらいうれしかった」という感想を寄せてくれました。一方、外山さんは、「吉村選手のサーブが分かりづらかった。またボールが速く回転量も多いため取りにくかった」とトップ選手のすごさを肌で感じるとともに、「吉村選手のスイングの速さを見習いたい」とひとつ新しい目標が見つかったように目を輝かせて話してくれました。

その後、両選手による模範試合を披露していただきました。寒いのか、若干凡ミスも見られましたが、時折カーブドライブ対カーブドライブの応酬やロビングに対するスマッシュをカウンターで返球するなどのファインプレーも見られ、参加者は興奮しながら観戦しました。若干違反と思われるサーブでの得点も見られるなど、ジャッジに「？」がつく場面もありましたが、試合はシーソーゲームに……。10-9と吉村選手リードのところで最後の1本を確実に決めるためか、吉村選手がタイムアウトを要求。その際、目の前にいた富岡大夢君（磐崎中1年）にアドバイスを求めました。富岡君は名監督風のそぶりです。「もっとしっかり動いてガンバレ！！」とゲキを飛ばし、会場の笑いを誘う一幕もありました。その後も接戦となりましたが、富岡君のアドバイスの甲斐もあってか（？）、最終的には14-12で吉村選手が勝利を収めました。

模範試合後はお楽しみ抽選会ということで、サイン入り色紙やバッグ、ラケットケース、さらには吉田海偉選手モデルのラケットや当日両選手が着用していたリストバンドまでもらえるという大サービスで、参加者は自分の番号を食い入るように見つめながら、両選手が読み上げる番号に耳を傾けていました。当然のことながら、当選者は大喜びでした。

最後のあいさつで両選手とも「目標を持ってがんばってほしい。機会があればまた来たい」と話してくれました。両選手のプレーを間近で見て、改めて卓球のすばらしさや魅力に触れ、堪能できたのではないかと思います。ただし、両選手のようなプレーをするためには、正しい基本を身につけ、相当量の練習をこなさなければならないことは言うまでもありませんし、そのための筋力も必要になります。真似をする人は体を壊さないように！！